

## 令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

## 令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	石巻市立向陽小学校	主な取組教科	算数科	
研 究 主 題	進んで考え、ともに学ぶ楽しさを実感できる児童の育成 —課題解決への意欲を高める算数科の授業づくり—		研究年次	3 / 3年次

## 1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
<研究の視点> ・意欲を高める課題を設定する。 ・課題の提示の仕方を工夫する。 ・学び合いの手立てを工夫する。	・標準学力調査の正答率が向上した。 ・学び合いによって学習内容を理解する児童が増え、意欲の高まりも見られた。	・平成29年度の全校平均正答率が64.6だったのに対し、令和元年度は72.6となった。 ・「算数の授業の内容がわからない」と回答した児童が3% (12名) から1% (4名) となった。
<マルチレベルアプローチ> ・P B I Sの取組を推進する。	・シールによる行動強化とシールの累積掲示により、良い行動を心掛ける児童が増加した。	・児童に与えたシールが、1154枚 (12月現在) で、昨年の7倍超となった。
<PDCAサイクル> ・学校評価によって取組の成果と課題を共有する。	・PDCAサイクルを確立することで、教員のベクトルがそろい、取組への意識が向上した。	・学期末評価において、学び合いを模索・工夫したとする回答の平均が3.55 (4段階) だった。
<行きたくなる学校づくり> ・学級経営、通級指導、楽しい学校イベント等にかを入れる。	・不登校児童や保健室の長時間利用者が減少した。	・平成29年度の不登校児童数は12名。令和元年度は7名。今年度は12月現在で2名となっている。

## 2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
低・中位層の児童の学力向上 →学年によっては二極化の兆しが見られた。	・日課表の工夫 (放課後に個別指導の時間を確保する) ・時間割の工夫 (体育や業間ランニングの後に算数を組み込む) ・新しい生活様式下における学び合いの工夫 (交流の質を高める)
G I G Aスクール構想と融合した学習指導 →臨時休業中のリモート授業や動画公開などができなかった。	・I C Tに関する現職教育の場の設定 ・I C T活用に関するPDCAサイクルの構築